

赤報（一、四九号）目録

- ▼赤報一号（一九七二年一月二五日）
  - ・我々の立脚点と世界革命戦争
  - ・八木沢一派批判
  - ・旧左派グループ批判
  - ・共産主義者同盟（RG）への党名変更について

- ▼赤報二号（一九七二年三月二五日）
  - ・非合法党建設の第二段階について
  - ・革命戦争をめぐる二つの道
  - ・民主主義一派に転落した八木沢一派批判

- ▼赤報三号（一九七二年五月二五日）
  - ・連合赤軍の闘争に対する我々の態度——その二——
  - ・共産主義者同盟（RG）中央委員会
  - ・連合赤軍の闘争に対する我々の態度——その二——
  - ・塩見孝也「今回の問題について」批判
  - ・連合赤軍の闘争と資本家階級、諸党派、知識人の対応（上）
  - ・獄中からの報告 2/16 正田慎介

- ▼赤報四号（一九七二年六月二五日）
  - ・PFLP 国際義勇軍のテルアビブ空港奇襲作戦に関する声明
  - ・共産主義者同盟（RG）政治局

- ▼赤報七号（一九七二年二月二〇日）
  - ・日共の人民民主主義路線を粉碎し、革命戦争をおし進めよう！
  - ・民主主義に対するマルクス・レーニン主義の原則的態度について
  - ・連合赤軍に対する日共革命左派の態度——渡辺正則君の総括批判——（上）
  - ・「新左翼」二二九号の赤軍派新谷君の通信への反批判
  - ・洗い直すべきは「攻撃型階級闘争論」そのものである

- ▼赤報八号（一九七三年二月一〇日）
  - ・革命戦争派の組織問題（上）
  - ・「烽火」派の組織に関する根本思想の批判
  - ・さすがに兄弟の血は争えない——純粋民主主義のお喋りの一大洪水
  - ・「いわゆる八・二五共闘諸派について」
  - ・連合赤軍に対する日共革命左派の態度——渡辺正則君の総括批判——（下）

- ▼赤報九号（一九七三年三月二五日）
  - ・革命戦争派の組織問題（中）
  - ・「烽火」派の組織に関する根本思想の批判

- ・連合赤軍の党的破産と国際非合法党建設の道（上）
- ・ブルードン主義に転落したうえのくん（上）
- ・連合赤軍の闘争と資本家階級、諸党派、知識人の対応（下）

- ▼赤報五号（一九七二年七月二五日）
  - ・革命戦争の旗をおろした八木君の似非レーニン主義について
  - ・RGを清算し銃撃戦に敵対するのは誰か「烽火」一派批判
  - ・国際非合法党建設の前進のために（1）
  - ・スターリン「資本主義批判」の批判
  - ・ブルードン主義に転落したうえのくん（下）

- ▼赤報六号（一九七二年一月二五日）
  - ・「黒い九月」の闘争に対する支持声明 共産主義者同盟（RG）中央委員会
  - ・プロレタリア独裁の旗を守り断固として革命戦争の道を進もう！
  - 「烽火」一派の最小限綱領について——
  - ・価値関係と資本関係について「火花」一一四号栗木論文への反批判 榎原 均
  - ・政治警察の反革命攻撃の性格
  - ・獄中からの一同志の報告
  - ・一読者からの手紙に対する回答——戦術、組織問題について

- ・赤軍派の分派闘争に対する我々の態度（上）
- ・「塩見孝也論叢」の批判
- ・日本共産党の戦術（民主連合政府論）と反日共諸派の戦術の批判（上）

- ▼赤報一〇号（一九七三年五月五日）
  - ・訂正と謝罪
  - ・日本共産党の戦術（民主連合政府論）と反日共諸派の戦術の批判（下）
  - ・革マル派組織論批判（上）

- ▼赤報一一号（一九七三年七月一日）
  - ・革命戦争派の組織問題（下1）
  - ・「烽火」派の組織に関する根本思想の批判
  - ・赤軍派の分派闘争に対する我々の態度（下）
  - ・「塩見孝也論叢」の批判

- ▼赤報一二号（一九七三年八月一日）
  - ・「6・17反弾圧集会」への共産主義者同盟（RG）中央委員会からのアピール
  - ・日向派批判
  - ・革マル派組織論批判（中）
  - ・旧神奈川「左」グループの「獄中の友への手紙」に対する態度

・パンフレット『叛爆取』における「ミットの会」の報告に  
対する抗議声明

▼赤報二三号（一九七三年九月二五日）

- ・スターリン主義に屈服した革共同革マル派の戦術の批判  
（上）
- ・同志竹谷との通信
- ・意見陳述 竹谷俊一
- ・七・二〇日航機日・丁闘争とアラブ赤軍に対する我々の態  
度

一九七三年八月一九日 共産主義者同盟（RG）中央  
委員会

▼赤報一四号（一九七三年十一月二〇日）

- ・誤った「史的唯物論」による「資本論」の歪曲を批判する  
（上）

——川島君の批判への回答——

- ・スターリン主義に屈服した革共同革マル派の戦術の批判  
（中）

▼赤報一五号（一九七四年二月五日）

- ・二二・一八「上赤塚交番襲撃闘争三週年」政治集会（主  
催・京浜安保共闘）へのアピール
- ・共産主義者同盟（RG）中央委員会

・誤った「史的唯物論」による「資本論」の歪曲を批判する  
（中の一）

——川島君の批判への回答——

- ・革命戦争派の組織問題（下の一）
- ・烽火一派の組織に関する根本思想の批判

▼赤報一六号（一九七四年四月二〇日）

- ・誤った「史的唯物論」による「資本論」の歪曲を批判する  
（中の一）（下）
- 川島君の批判への回答——
- ・スターリン主義に屈服した革共同革マル派の戦術の批判  
（下の一）

▼赤報一七号（一九七四年八月一日）

- ・革マル派組織論批判（下）
- ・意見陳述 竹谷俊一

▼赤報一八号（一九七五年一月二五日）

- ・革命戦争派の真の統一を妨げる者は誰か
- 旧神奈川「左派」のデマと革命戦争統一戦線の主  
張について——
- ・塩見君のデマと中傷について
- ・革命左派の路線転換について

▼赤報一九号（一九七五年五月二〇日）

- ・革共同両派の党派闘争に対する我々の態度
- ・獄中からの報告 浜田則男
- ・再び旧神奈川「左派」のデマと中傷について——資料——

▼赤報二〇号（一九七五年十二月二〇日）

- ・最近の党派再編に対する我々の態度
- ・II旧再建革命左派の二つのパンフに対する見解を発表  
するにあたって
- ・朝鮮問題に対する我々の態度（上）

▼赤報二一号（一九七七年八月二〇日）

- ・国際非合法党建設を勝利させよう！
- ・日本の警察の特徴とその情報収集活動
- ・マルクスの蓄積論の復権と宇野理論の批判（上）
- ・マルクス、エンゲルス、レーニンの国家と法に対する学説  
（上）
- ・RG被告団結成アピール

▼赤報二二号（一九七七年十一月二五日）

- ・狭山差別裁判弾劾闘争と革命的プロレタリアートの任務
- ・日本赤軍、東アジア反日武装戦線に対するわれわれの見解
- ・マルクスの蓄積論の復権と宇野理論の批判（下）

▼赤報二三号（一九七八年一月二五日）

・誤った「史的唯物論」による「資本論」の歪曲を批判する  
（中の一）

——川島君の批判への回答——

- ・革命戦争派の組織問題（下の一）
- ・烽火一派の組織に関する根本思想の批判

▼赤報一六号（一九七四年四月二〇日）

- ・誤った「史的唯物論」による「資本論」の歪曲を批判する  
（中の一）（下）
- 川島君の批判への回答——
- ・スターリン主義に屈服した革共同革マル派の戦術の批判  
（下の一）

▼赤報一七号（一九七四年八月一日）

- ・革マル派組織論批判（下）
- ・意見陳述 竹谷俊一

▼赤報一八号（一九七五年一月二五日）

- ・革命戦争派の真の統一を妨げる者は誰か
- 旧神奈川「左派」のデマと革命戦争統一戦線の主  
張について——
- ・塩見君のデマと中傷について
- ・革命左派の路線転換について

・政治的煽動について

・西独赤軍に対する我々の態度

・党建設の新たな段階を切り拓くために（上）

・II 10・13以前の政治警察との闘争の教訓

・プロレタリア革命と背教者宮本一派（上）

▼赤報二四号（一九七八年四月二五日）

- ・「三里塚」五月開港実力阻止！
- ・党建設の新たな段階を切り拓くために（下）
- ・プロレタリア革命と背教者宮本一派（下）
- ・弁護人抜き裁判をめざす特例法を粉砕せよ！

▼赤報二五号（一九七八年六月二〇日）

- ・五月の闘いの教訓
- ・塩見君の組織思想の批判——プロ革派の分裂の基礎にある  
もの——
- ・ユーロコミュニズムとイタリア共産党
- ・マルクス、エンゲルス、レーニンの国家と法に対する学説  
（下）
- ・第一次RGの戦闘の教訓について

▼赤報二六号（一九七八年八月二五日）

- ・部落解放闘争の前進のために
- ・「赤報」編集局にきた手紙への回答

- ・ 婦人解放闘争の勝利のために(一)
- ・ 中央集権主義の組織思想に関する論争
  - 党建設の新たな段階を切り拓くために(三)
- ・ 愛による共産主義化論の批判
  - ・ 「資本論」の復権」発刊にあたって

▼ 赤報二七号(一九七八年十一月二五日)  
 ・ 有事立法攻撃に対決し、国際非合法党建設の勝利をかちとろう!

- ・ 国際非合法党の任務について
  - 党建設の新たな段階を切り拓くために(四)
- ・ 宮本一派米田佐代子のエセ婦人解放論(上)
- ・ 工場新聞の組織と思想

▼ 赤報二八号(一九七九年一月二五日)

- ・ 国際非合法党建設の勝利にむけて更に前進しよう
  - ・ 労働に応じた分配について
    - 中国共産党の「四人組」批判の検討——
  - ・ 有事立法攻撃と自衛隊
  - ・ フランス社会党・共産党の批判(上)
  - ・ 宮本一派米田佐代子のエセ婦解論下)
  - ・ R G資料集発刊にあたって

▼ 赤報二九号(一九七九年三月三〇日)

- ▼ 赤報三二号(一九八〇年二月二〇日)
  - ・ R G II 政治軍隊の継承と党建設
  - ・ ソ連論と綱領問題
  - ・ 新植民地主義支配の再編と南朝鮮階級争
  - ・ ソビエト社会主義経済学の批判(上)
    - 続「経済学教科書」批判——
  - ・ 田沼肇の民社党批判の検討
  - ・ 八〇年代叛軍闘争の政治思想課題

▼ 赤報三三号(一九八〇年四月一〇日)

- ・ ソ連のアフガニスタン侵略と革命戦争
- ・ 社会帝国主義的婦人論の出発点(下)
- ・ 第一次R Gの総括とR G II 政治軍隊
- ・ ソ連における階級の形成(上)
- ・ ソビエト社会主義経済学の批判(下)
  - 続「経済学教科書」批判——
- ・ 日本赤軍の「自力更生」論について(二)

▼ 赤報三四号(一九八〇年六月一〇日)

- ・ 光州蜂起への国際主義的連帯を勝ちとれ
- ・ イラン革命と世界革命戦争
- ・ 経済的暴露を改革しよう
- ・ 労働運動と革命戦争派
- ・ ソ連における階級の形成(中)

- ・ 中国—ベトナム戦争と世界プロレタリアート独裁
  - ・ 労働に応じた分配について(前号からのつづき)
  - 中国共産党の「四人組」批判の検討——
  - ・ 青年学生問題の反面教師
  - ・ 資本関係は「一つの価値関係」か?
    - 粟木氏の再批判に答える—— 榎原 均
  - ・ フランス社会党・共産党の批判(下)
  - ・ 宮本一派労働組合戦術論の批判のために

▼ 赤報三〇号(一九七九年八月三〇日)

- ・ 資本主義批判について
- ・ M L派と遊撃派の統合批判
- ・ 中東和平とアラブ革命
- ・ 婦人解放闘争の勝利のために(2)
- ・ 服務規律の総括
- ・ 太平洋圏構想と「指針」

▼ 赤報三一号(一九七九年十二月一日)

- ・ 急進民主主義の克服を掲げた急進民主主義
- ・ スターリン主義批判
- ・ 革命戦争理論の深化のために
- ・ ソビエト「経済学教科書」批判
- ・ 社会帝国主義的婦人論の出発点(上)
- ・ 南朝鮮階級闘争の新段階とプロレタリアート

・ 隊友反戦(元自衛官運動)の総括のために 我妻正美

▼ 赤報三五号(一九八〇年九月一〇日)

- ・ ソ連における階級の形成(下1)
- ・ 社会帝国主義者の民族自決論
  - 前衛七月号「社会主義と民族自決論」の批判——
- ・ 中核派婦人論の批判(上)
- ・ 新植民地主義論の考察

▼ 赤報三六号(一九八〇年十一月二〇日)

- ・ 新植民地主義打倒・日韓連帯の大道へ!
- ・ ポーランドスライキ闘争の展望
- ・ 戦後東欧諸国の階級闘争
- ・ 「防衛白書」の戦略構想と産軍複合体
- ・ ソ連における階級の形成(下2)
- ・ 「新ナショナルセンター」論の批判

▼ 赤報三七号(一九八一年四月一〇日)

- ・ 世界情勢をめぐる党派闘争とわれわれの課題
- ・ 「婦人差別撤廃条約」に対する社会帝国主義者の讚美
- ・ スターリンの帝国主義認識の批判
  - レーニン帝国主義論の学習のために——
- ・ 中国の階級闘争に対する基本的観点
- ・ 総合安保「防衛」論争への反攻を組織せよ

▼赤報三八号（一九八一年七月二〇日）

- ・『革命戦争派の組織問題』総括討論（上）
- ・過渡期についての新解釈の検討
- ・中核派婦人論の批判（下）
- ・サークル根性について
  - プロレタリア派批判——
- ・経済主義・一国主義との闘争を強化せよ
  - 革命の旗派の「批判」について——

▼赤報三九号（一九八一年十一月一〇日）

- ・『革命戦争派の組織問題』総括討論（下）
- ・共産主義者同盟の帝国主義論（上）
- ・スターリンの理論上の誤謬についての要綱
- ・黒豹党の教訓について（一）

▼赤報四〇号（一九八二年二月二〇日）

- ・帝国主義の政治と革命戦争派の任務
- ・ポーランド軍政と世界同時革命
- ・日共高本一派の世界認識の批判
- ・光州蜂起についての手紙
- ・共産主義者同盟の歴史入門（二）

▼赤報四二号（一九八二年六月二〇日）

- ・帝国主義打倒の綱領へ
- ・ポーランドの反革命とソ連
- ・戦後沖繩独立論の復帰論への転換と日本十琉球の共産主義者
- ・書評・ヴォスレンスキー著『ノーマンクラツラ』
- ・共産主義者同盟の歴史入門（二）
  - || スターリン神話の崩壊 ||
- ・沖繩・奄美の自立とプロレタリアート

▼赤報四三号（一九八四年一〇月六日）

- ・民族差別と在日朝鮮人労働問題
- ・侵略史の現代的更新
- ・投稿・精神障害者差別と精神病院資本
- ・共産主義者同盟の歴史入門（三）
  - || 続・スターリン神話の崩壊 ||
- ・信用論研究 宇野利子論でのマルクス批判の検討
- ・獄中二題 大杉範夫

▼赤報四三号（一九八五年七月二〇日）

- ・日韓条約二〇年と資本輸出
- ・社会革命と文化（上）
- ・投稿・沖繩における反軍用地闘争への結合の課題
- ・優生保護法改悪と障害者解放について

▼赤報四四号（一九八五年十二月二五日）

- ・社会的精神をもってする政治革命の大道へ
- ・農業の生産力と資本商品
- ・社会革命と文化（中）

▼赤報四八号（一九八九年七月一〇日）

- ・文化的勢力の国際的連帯を
- ・革命主体の形成
- ・法言語の批判と市民社会
- ・現代労働運動思想の描写（二）

▼赤報四五号（一九八六年四月二〇日）

- ・自然発生性と目的意識性
- ・寄せ場の闘いの社会化と市民社会批判
- ・革命の社会的精神と差別
- ・社会革命文化（下）

▼赤報四九号（一九九〇年一月三〇日）

- ・ベレストロイカについてのテーゼ
- ・計画経済の可能性 「計画と市場」論を超えて
- ・ソ連における社会革命
- ・「美的なもの」とイデオロギイ論（一）
- ・へ学習の手引〜ソ連農業のオルタナティブを求めて
- ・紹介・榎原 均著『価値形態・物象化・物神性』

▼赤報四六号（一九八七年一〇月五日）

- ・階級の成熟と社会革命 II 対話篇 II
- ・科学批判—権力論の接合へ
- ・社会革命と文化 第二部第一回

▼赤報四七号（一九八八年九月二日）

- ・価値判断・生活世界論と物象化
  - 道徳批判から暴力への道——
- ・社会革命と文化 第三部
- ・現代労働運動思想の描写（二）
- ・社会革命と文化 第二部第二回
- ・外国人出稼ぎ労働者との連帯によせて